

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：座間市立もくせい園	種別：生活介護
代表者氏名：田中 誠一	定員（利用人数）： 30名
所在地：〒252-0014 座間市栗原中央6-7-27	
TEL：046-253-0804	ホームページ： <a href="http://www.agape-jcws.com">http://www.agape-jcws.com</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2008年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人日本キリスト教奉仕団	
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員 14名
専門職員	サービス管理責任者 1名 栄養士 1名
	生活支援員 20名 運行職員 3名
	看護師 1名
施設・設備の概要	作業室、更衣室、相談室 食堂、医務室、トイレ

③理念・基本方針

<p>&lt;理 念&gt;</p> <p>キリスト教精神に基づく「共に生き、共に歩む」</p> <p>&lt;方 針&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 障がい児・者の福祉のため 「私たちは、障がい児・者の尊厳を守ります。」</li><li>2. 地域と共に 「私たちは、福祉サービスを通じて社会に貢献し、地域と連携します。」</li><li>3. 常に新たなニーズを捉える 「私たちは、先駆的に新しいニーズを見つけることに努力します。」</li><li>4. 最高のものを 「私たちは、プロとして倫理と誇りと高い専門性をもって、最高のサービスを提供します。」</li></ol>
--

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>〇市の指定管理を受けた事業所として、他の事業所では受け入れが難しい重度の知的障害や自閉症スペクトラムなどの利用者を受け入れている。利用者のほとんどが言葉によるコミュニケーションが困難なため、利用者の表情や目線、態度などから、職員は利用者の思いを確認している。また、利用者それぞれの特性に配慮して、現物の提示や絵カード、文字、サインなどを組み合わせたコミュニケーション手段により、本人の意思確認を行っている。言葉での会話が可能な利用者についても、適切に伝わっているとは限らないため、言葉以外のサインもキャッチして対応している。支援者側からの一方的なコミュニケーションにならないように、利用者自らが発する言語、サインを大切に支援している。</p>
--

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年4月2日（契約日） ～ 2024年2月9日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（ 年度）

⑥総評

<p>◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等</p> <p>○法人内に、東京と神奈川に2つのセンターがあり、座間市立もくせい園は、神奈川のアガパセンターに属し、市の指定管理を受けた事業所として、重い障害を持つ利用者の日中活動を支援している。</p> <p>○本人の意向や相性、活動量などに配慮し、個別支援計画を作成している。日課表やスケジュール表に基づいて、午前中は生産活動として、紙すき製品（はがき、カード、コースターなど）やビーズ製品、使用済みの切手はがしなどの作業を行っている。制作した作品は、市内障害者施設やほほえみショップや催事で販売している。</p> <p>○午後は音楽や創作、リラクゼーション、ダンス、散歩、ドライブなど多くのプログラムを用意している。また、アニマルセラピーや外部講師によるリトミックのプログラムも取り入れている。</p> <p>○1日の流れを決めて、利用者を支援しているが、毎朝の組のミーティングで活動内容を説明し、利用者のその日の意思を確認している。午前は、生産活動だが、気乗りせず拒否があった場合は、無理強いせず、その日、本人ができる内容に変更している。障害の特性に応じて、パーテーションで仕切った個別の空間を用意するなど配慮している。カードの提示など、さまざまなコミュニケーション手段により、利用者の意思を確認しているが、職員からの押し付けにならないよう支援している。食事毎月1回、サンプルを提示して選んでもらう「選択食」を提供している。</p> <p>○障害の特性に応じ、座る位置を工夫したり、個別の空間を確保している。また、パニックになった時に、落ち着くことができるスペースを設けている。作業室はエアコンで快適な温度を保っているが、廊下やトイレにはエアコンの設置はないため、登園から降園までトイレの入口にいる利用者のために、個別にエアコンを設置して対応している。</p> <p>○言葉での表出が難しい利用者が多いため、嫌がらずに事業所に通い、嫌がらずに活動を行っているかを、満足度のひとつの目安にしている。利用者の自傷や他害、物を壊すなど、その行動の前に何があったのか、心の状況を確認し、その時の気持ちを受け入れて、安心できる環境を作るようにしている。薬品の保管場所など危険な箇所には鍵をかけているが、事業所内や玄関は施錠せず、利用者が自由に行き来ができるようにしている。</p> <p>○利用者からの「〇〇が食べたい」「〇〇へ行きたい」などの希望は、年に2回の個別外出で可能な限り実施できるようにしている。毎日の近隣への散歩やドライブなど、天気の良い日は、午後の時間は外に出かけるようにしている。どのグループがどこに行くかなど、計画に沿って実施している。外に出て好きな物が目に入ったりすると、急に走り出したり、予期せぬ行動があるため、必要な利用者に対しては2名で対応するなど配慮している。</p>
--

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

評価結果は項目ごとにabcの段階評価に加え、コメントがあることで、評価内容を確認し、自らのサービス内容を改めて認識することができました。

福祉サービスの評価は受け手との関係や受け手の認識によって評価に大きく影響すると思いますので、公正、中立な立場で客観的に評価された結果は、これまでのサービス内容の振り返りや今後のサービスを考えるために大いに役立つものと思います。

評価結果については、優先順位をつけ、サービス向上の取り組みに役立てたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり